

校長室だより

令和7年1月14日(金)
第29号
十日町市立中条中学校校長室

高等学校の入試制度について

今回は高等学校（以下：高校）の入試制度についてお知らせします。高校の概要については校長室だより28号でお知らせしました。まずは公立高校についてまとめます。

1 公立高校の入学検査について

公立高校の入学者選抜には「特色化選抜」「一般選抜」「欠員補充のための2次募集」があります。それぞれの選抜方法を確認します。



その1 特色化選抜

対象生徒は、スポーツ活動、文化活動、科学分野の活動等に秀でた実績があり、各高校の特色ある教育活動の中心的役割を果たすことが期待される生徒です。特色化選抜はあくまで中学校長の推薦が必要です。中条中学校では実績を満たせば即推薦ではなく、中学校生活の様子を踏まえて推薦委員会で決定します。検査は個人面接ですが、学校・学科によっては必要な検査を行うところがあります。

特色化選抜面接等 令和8年2月9日(月)
内定通知 令和8年2月12日(木)

※一般入試より早く
実施されます。



近隣の高等学校で特色化選抜を実施している学校の実績要件です。

スポーツで言えば県大会出場相当がほとんどです。

十日町高校…スキー（クロスカントリー）、陸上競技 ※特色化選抜は普通科のみ
十日町総合高校…スキー（ノルディック）

松代高校…地域探究 ※地域探究＝「総合的な学習の時間」等での地域連携の取組実績

八海高校…陸上競技、スキー（アルペン）、レスリング男子

その2 一般選抜

中学校卒業見込み及び中学校を卒業した者は誰でも受検できる入試です。すべての高校、学科で実施されます。全日制では5教科、定時制では3教科の検査と中学校から送付される調査書の合計で選抜されます。学校によっては学校独自検査を課すところもあります。

一般選抜学力検査 令和8年3月4日(水)
合格発表 令和8年3月12日(木)

※近隣の全日制で、学校独自検査を課す学校はありません。

※十日町高校定時制は学校独自検査として、個人面接を課しています。

その3 欠員補充のための2次募集

一般選抜後、1人でも欠員が生じたすべての学校、学科で行われます。出願資格は、一般選抜までにいずれの学校にも合格していない生徒です。ただし、公立高校に併せて出願できる、

2次募集学力検査 令和8年3月18日(水)
合格発表 令和8年3月19日(木)

県内私立高校の入学者選抜（いわゆる併願）に合格している生徒も、2次募集に出願することができます。

公立通信制高校については、募集要項が別になっています。通信制高校を希望される方は担任に確認してください。

2 私立高校の入学試験について

私立高校の入学者選抜は、学校によって様々ですが、多くの学校で取り入れている形式をお知らせします。各高校の詳細は担任までお問い合わせください。まず、私立高校入試で使われる用語を確認しましょう。



その1 「専願」と「併願」

私立入試でよく使われる言葉です。「専願」とは、その高校を第1志望として出願し、「合格したら必ず入学する」という約束での受験です。「併願」とは、他の高校を第1志望としていますが、万が一第1志望校が不合格だった場合のために受験するものです。

その2 「推薦入試」と「一般入試」

「推薦」とは「人をその地位・名誉に適している者として他人にすすめること。」という意味です。高校入試の場合は、推薦入試を希望した生徒について校内推薦委員会を開催します。個々の生徒について中学校生活の学習状況、生活状況について審議をして校長が推薦します。(公立高校の特色化選抜も推薦入試と同様で、校内推薦委員会で審議します。)



「一般入試」には、校長の推薦等は必要ありません。私立の一般入試で合格した場合は、必ずその学校に行かなければならないという制約はありません。

一方、公立高校の一般選抜で合格した場合は、専願と同じ考え方でその学校に進学することになります。私立の「一般入試」は公立高校を第1志望にしている生徒も受験することから、定員よりも多く合格者を出している現状があります。一方、公立高校はほとんどの場合、募集定員でしっかりと合否が分かれます。公立高校の一般選抜は、「専願」と同じ意味で「合格したら必ず入学する」ことが暗黙の了解になっているからです。

私立高校が第1志望なら、1月の専願入試から受験することになります。合格すれば公立高校に出願、受検はしません。私立の一般入試は併願と同じと考えるべきで、私立高校の一般入試に合格したら、公立、私立どちらに進学するのか決めなければなりません。

その3 「併願推薦」とは

長岡市内の二つの高校で行っている入試形式です。「併願」と「推薦」の両方の要素を組み合わせています。帝京長岡高校の入試要項の併願推薦の出願資格には「学業成績が3年間9教科の評定が合計85以上で、全ての教科で1がないもの」(合計85とは各教科平均3.2なので、すべて3以上で一部4の評定が必要です。)とされています。中学校からの推薦書には「人物・学業の両面で優れており、貴校への入学が適当であると認められますので推薦いたします。」という内容で中学校長が推薦します。中越高校も同様で、選抜ごとに求める評定値が定められています。生徒が当該高校への併願を希望する場合は、中学校に申し込みます。中学校で推薦基準をクリアしているかを審議し出願します。入学試験は行われず書類での審査となります。

さて、このたよりの中で「受検」と「受験」の使い分けをしていることにお気付きでしょうか。公立高校は入学者選抜のための「学力検査」や「学校独自検査」を実施します。だから、公立高校は「受検」です。一方、私立高校は入学者選抜のための「入学試験」を実施します。だから、私立高校は「受験」です。

さて、3年生にとっては、進路を決定する時期になってきました。12月10日(水)から三者面談が行われます。家庭で十分相談の上、三者面談に臨んでください。



出願方法は保護者によるWebを使用しての出願になってから3年目です。詳細は学年部から連絡します。